

第1242号

株式会社 茨城木材相互市場

2023

那珂川NEWS

6

育てませんか あなたと私の Wood コミュニケーション

皆様方のご支援に心より感謝します！ (2023年3月期)

おかげさまで20期連続の黒字決算

皆様方から選ばれる企業を目指します

- 県産材の供給基地(流通の要)の役割を果たします。
- 時代変化へ対応する情報発信基地の役割を担います。

弊社の第68期(2022年4月～23年3月)業績は、売上高80億9千万円(前期比122%)、売上総利益10億5千3百万円(同151%)、経常利益は3億3千3百万円(同214%)、税引後当期純利益は2億2千4百万円(同198%)という結果となり、おかげさまで20期連続の黒字決算(自己資本比率は28.8%)を達成できました。これも偏に皆様方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

令和4年度も人間尊重をベースとした「労使共同経営の精神」で従業員の物心両面の幸福の増幅を目指すと同時に取引先の皆様方との信頼関係を構築し「皆様方から選ばれる価値ある存在」になることを目標に取り組みで参りました。

令和4年6月に日本産業株式会社建材事業部を事業譲受させて頂き開設した「西原事業所」におけるプレカット加工事業は順調に推移し、事業の大きな柱の一つとなりました。西原事業所は木工事業の笠間事業所(2020年11月開設)とともに収益性が高く、会社全体の粗利益率向上に大きく貢献しました。

今後は、本社木材営業部&つくば営業所・プレカット事業部・住宅建材部をベースに、笠間事業所並びに西原事業所との連携を強化し(相乗効果を発揮し)「生産・流通・建築工事」に取組む「住宅資材・建築総合企業」として皆様方のお役に立っていきたいと考えております。

また「地域型住宅グリーン化事業(茨城・森から家Net)」の事務局として活動し、長期優良住宅の確認申請業務や瑕疵保険などの営業後方支援に取り組む(21戸の実績)と同時に時代の変化に即応した情報の発信に努めてまいりました。

これからも既存事業の拡大に挑戦するとともに公共建築物や非住宅物件への対応を通じて、弊社の強みである茨城県産材の普及拡大に積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様方の変わらぬご支援の程宜しく願い申し上げます。

創立68周年”上半期最大”の記念市!!

「木材まつり」

6月13日(火)

昼食11:30～ セリ開始12:30～

イベント内容

●茨城県産材推進協議会

茨城県産材推進協議会様より、ご来市の皆様に

記念品を進呈いたします!!

●木材

・「前売り製品現金抽選会」

(対象期間:5/24～6/12)

製品お買上げ1口につき抽選券1枚!!

・「当日お買上現金大抽選会」

・当日現金大抽選会では 特賞1万円が1本!

一等5千円5本! 二等3千円5本! 三等2千円5本! 四等1千円20本!が当たります!

セリコーナーにてお買上げ1口につき抽選券1枚!!

●建材「建材謝恩コーナー開催!!」

「特価セール品展示販売!!」

特価品を多数ご用意してお待ちしております!!

ご来市のお客さまにもれなく粗品を御進呈! 皆様のご来場を社員一同お待ちしております。

■わたしたちの使命(SDGs)

(茨城木材の社会的役割)

「消費と生産を結ぶ価値ある架け橋」となる
— 循環型地域環境の創造 —

1. 地域の人々により良い『住環境』を提供すること
2. 茨城県の森林環境を守ること



令和5年4月新設住宅着工					
	計	持家	貸家	給与住	分譲住
全国計	67,250	18,597	28,685	267	19,701
前期比	88.3%	88.5%	97.4%	51.1%	78.2%
茨城県	1,315	614	399	2	300
前期比	96.7%	91.2%	192.8%	33.3%	63.3%

県内市別の状況及びR4年度累計は弊社Facebookをご覧ください。

トピックニュース

壁せん断実験を見学して・・・

日時：2023年4月19日 場所：埼玉県川口市

【壁（面材耐力壁）せん断実験】って皆さんご存じですか？

耐力壁の実物（3m×0.91m）を作成し、建築基準法が想定する

「極く稀に起こる地震」の再現実験です。

（右記写真参照）今回は㈱アイディールブレン様（制震装置製造販売メーカー・<https://ibra.in.jp>）の協力を得て実験を実施しました。当日は茨城森から家net会員様・設計事務所様・一般工務店・販売店様・弊社社員、総勢20名での見学となりました。

試共体は4体（内訳：木質系面材、制震テープ付木質系面材、無機質系面材、制震テープ付無機質系面材）を作成し、動的加力試験を実施しました。



下の写真2枚は木質系耐力面材の最終破壊状態です。耐力壁で一番重要な要素である「N50釘」が柱から抜け出しているのが分かると思います。

右の写真は同耐力面材に制震テープを付加して実験をした写真です。

（柱と面材の間の白く見えているのが制震テープです。）同じ条件で加力試験をしても破壊状態の相違が見て取れると思います。



次に下写真2枚は無機質系耐力面材の最終破壊状態です。

釘はまだ柱に存する状態であるのに、先に面材が剥落してしまっています。

「基材強度がもっと強ければ、面材が先に剥落しないで耐力が継続できる」と言う事です。



右写真は同面材に制震テープを付加した実験結果です。制震テープが面材の先行破壊を補強している事が分かります。



実験中の詳細は森から家netのHP <http://morikaraie.net/>で閲覧できます。

最後に・・・

今までは耐力面材の選定に関し、経済性・壁倍率のみで選定していました。しかし、今回の動的壁せん断試験を通して、今までの選定基準にプラスしてその面材自身が持っている防火性・透過性・靱性（ねばり強さ）と**「最終破壊状態」**もきちんと考慮し選定しなければならないと痛感しました。

◆この記事に興味がある方は、サポートセンター 佐藤まで連絡下さい。